

## 最優秀賞

神奈川県共同募金会会長賞

### 想像力をはたらかせて

横浜市立葛野小学校（泉区）

六年 川上 開

僕はこの夏、毎日電車で塾に通っている。いつものようにホームに着くと駅員さんが立っているのに気づいた。そのとなりに車椅子に乗った人もいた。何かあるのかなと思えばらく見ていた。すると電車がやってきた。駅員さんは板の様なもの、電車とホームをつないだ。そして、その上を車椅子の人が通り、電車に入って行った。僕はその様子をずっと見ていた。電車に乗った後も車椅子の人が気になった。降りる時はどうするのか？同じように駅員さんが手伝ってくれるのかな？そもそも、ホームまでどうやってきたのだろうか？と色々と思いつた。

次の日、また同じように塾に向かった。駅に着き、ふと昨日のことを思い出した。車椅子

の人、今日もいるかな？そういえばどうやってホームまで行ったんだろう？僕は車椅子に乗ったつもりでホームを目指すことにした。

まず改札口。いつも使っている改札口は幅がせまくて通れなさそうだ。広い改札口を通る。ホームに降りるにもエスカレーターは使えない。エレベーターを使う。他の人が待っていた。少し待ってエレベーターに乗った。ホームに着いた。いつもの電車はもう行ってしまった。次の電車を待って、少しあわてて塾に向かった。

車椅子での動きを想像しながら行動してみると、いつもより時間がかかった。改札口を通るにも、ホームに行くにも方法が一つしかないからだ。よく使う駅なのでエレベーターの場所はすぐに分かったが、知らない場所ではエレベーターをさがすのも苦勞しそうだ。僕がまだ想像できていない問題もありそうだ。車椅子の人と話す機会があったら、僕の想像は正しいか聞いてみたい。だれもが生活しやすい街にするためには、いろいろな立場の人の動きを想像してみるの大切だと思った。